

三田尻病院

医療機関 2025 プラン

平成30年10月 策定 令和2年12月 変更

【基本情報】

医療機関名	医療法人 神徳会 三田尻病院
開設主体	医療法人 神徳会
所在地	山口県防府市お茶屋町3番27号
許可病床数 (病床の種別) (病床機能別)	144床 一般病床 144床 急性期 94床、回復期 50床
稼働病床数 (病床の種別) (病床機能別)	144床 一般病床 144床 急性期 94床、回復期 50床
診療科目	内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、血液内科、糖尿病内科、腎臓内科、血管内科、神経内科、人工透析内科、外科、乳腺外科、整形外科、脳神経外科、アレルギー科、小児科、皮膚科、泌尿器科、眼科、放射線科、歯科、歯科口腔外科
職員数 ・ 医師 ・ 看護職員 ・ 専門職 ・ 事務職員	270名 ・ 62名（常勤13名） ・ 130名 ・ 53名 ・ 25名

作成 担当者	(所属) 総務課 (氏名) 神徳 一也	連絡先	(電 話) 0835-22-1110 (メー ル) somu1255@mitajiri.net
-----------	------------------------	-----	--

【1. 現状と課題】

① 自施設の現状

【基本理念】

「病院は地域 そしてスタッフのもの」

【目標】

「地域に求められる良質かつ適切な医療を提供できる病院」

「快適で活力ある働きがいのある病院」

【5年間の指針（平成27年度策定）】

三田尻病院は「地域包括ケアシステム」の中心施設となるべく
地域内の急性期の一部、並びに亜急性期の患者さんに特化した医療を提供する。

【平成30年度事業運営における具体的取組】

（1）地域において急性期・回復期医療を担う病院としての役割

- ①在宅復帰支援強化（地域連携部門強化、サブリハビリセンター増設）
- ②地域医療連携の推進（県央デルタネット事業参加）
- ③疾病の早期発見と早期予防（健診センター疾病予防事業強化）
- ④災害拠点病院機能強化（災害対応訓練実施）

（2）医療の質向上に対する取り組み

- ①チーム医療の推進（口腔ケア等在宅医療への取り組み）
- ②病床機能の効率的運用（病棟稼働率向上への取り組み）
- ③医師、看護師の負担軽減（診療支援室・入退院支援センター新設）
- ④患者満足度向上への取り組み（病室の計画的な整備）

（3）健全経営の確保

- ①医療スタッフの確保と人材育成（教育計画の策定、共有）
- ②医療現場と管理部門の情報共有と相互連携強化（部門目標の策定、共有）
- ③医療費用の適正化（人件費率と材料費の適正管理）
- ④医療機器、設備の計画的な更新・整備（予算計画の策定、共有）

【届出入院基本料】

急性期一般入院基本料6（94床→78床）、地域包括ケア病棟入院基本料2（50床）

【診療実績（平成29年9月1日 - 平成30年8月31日）】

- ・ 1日平均入院患者数 123.9人
- ・ 平均在院日数 19.2日
- ・ 一般病床利用率 87.0%
- ・ 1日平均外来患者数 272.0人
- ・ 1日平均救急患者数 3.3人（独歩）
- ・ 1日平均救急患者数 0.5人（救急車）
- ・ 手術件数 390件
- ・ 紹介率 20.2%
- ・ 逆紹介率 18.6%

【特記事項】

- ・ 災害拠点病院
- ・ 2次救急指定医療機関

【地域特性】

山口・防府医療圏において高度急性期病床を擁する医療機関は3ありそれぞれの防府市中心市街地からの移動時間は以下の通り。

山口県立総合医療センター 15分

山口赤十字病院 40分

済生会山口総合病院 40分

また山口市中心市街地からの移動時間はそれぞれ以下の通り。

山口県立総合医療センター 30分

山口赤十字病院 10分

済生会山口総合病院 10分

山口・防府医療圏において人口の大幅な減少は予測されておらず高度急性期機能においてはその維持が求められる。上記の通り防府地域の高度急性期医療は山口県立総合医療センターに依るところ大であり、その維持を欠かすことはできない。

また防府地域において急性期医療を担う医療機関は前述の山口県立総合医療センターを含め7病院、551床。必要病床数から割り出せばそのうち164床が不要と判断される。

一方、回復期機能を担う病床については355床が不足していると推計され、高度急性期・急性期病床からの移行が行われる可能性がある。

② 自施設の課題

山口・防府医療圏の休床を除く許可病床は3,833床。2025年に必要とされる病床は3,008床。当院が届出している「高度急性期・急性期・回復期」の区分においては必要病床数との差が約13.7%ある。必要病床数との差を全医療機関で按分するとするならば当院においては144床中の約20床を削減するということになる。

しかしながら「地域特性」の項目にも記載した通り、山口・防府医療圏、とりわけ防府地域の医療提供に際しては高度急性期機能を担う山口県立総合医療センターの存在は欠くべからざるものであり、その高度急性期機能の維持を最優先に考えるべきである。急性期、回復期両機能を担う当院としては急性期機能、回復期機能共にその充実を計る必要がある。その際、課題となる事項は以下の3点。

- ①急性期・回復期（主としてリハビリテーション）における多様な診療ニーズに対応する一部医師への業務偏重の是正。
- ②災害拠点病院として必要な機能の補完、維持に対応する一部医師への業務偏重の是正。
- ③上記2点で必要とされる機能を十分に果たすため現在以上の人数が必要となる看護師の確保。

さらに、人員の不足を補いながら地域医療の現状に鑑み、更なる回復期機能の充実と急性期機能の強化を計るため当院は急性期病床16床の削減を行う。また今後、回復期機能の拡充に関しても検討を進める。

【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～②を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

- 急性期・回復期における多様な診療ニーズへのさらなる対応の充実。
- 災害拠点病院として必要な機能の補完、維持。

② 今後持つべき病床機能

- 急性期機能（78床）と回復期機能（50床）を使い地域内の他院動向に合わせた対応を行う必要がある。

③ その他見直すべき点

先日の山口・防府医療圏地域医療構想調整会議にて提示された「平成30年度からの病床機能報告における医療機能の選択について」に示された保険点数における医療機能分類に基づいた自院の患者層分析。

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成30年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期		→	
急性期	94		78
回復期	50		50
慢性期			
休棟等			
(合計)	144		128
介護保険施設へ移行予定	—		
うち、介護医療院	—		

<年次スケジュール> ※今後のスケジュールがある場合に記入

年度	取組内容	到達目標

② 診療科の見直しについて ※検討の上、見直さない場合には、記載は不要

--

③ その他の数値目標について ※該当項目がある場合に記入

<ul style="list-style-type: none"> ・紹介率、逆紹介率の向上（一般病院全国平均 紹介率49.8% 逆紹介率23.3%） ・人件費率の適正化（平成30年度8月累計57.9%、一般病院全国平均 53.3%）
--

【4. その他】（自由記載）

--